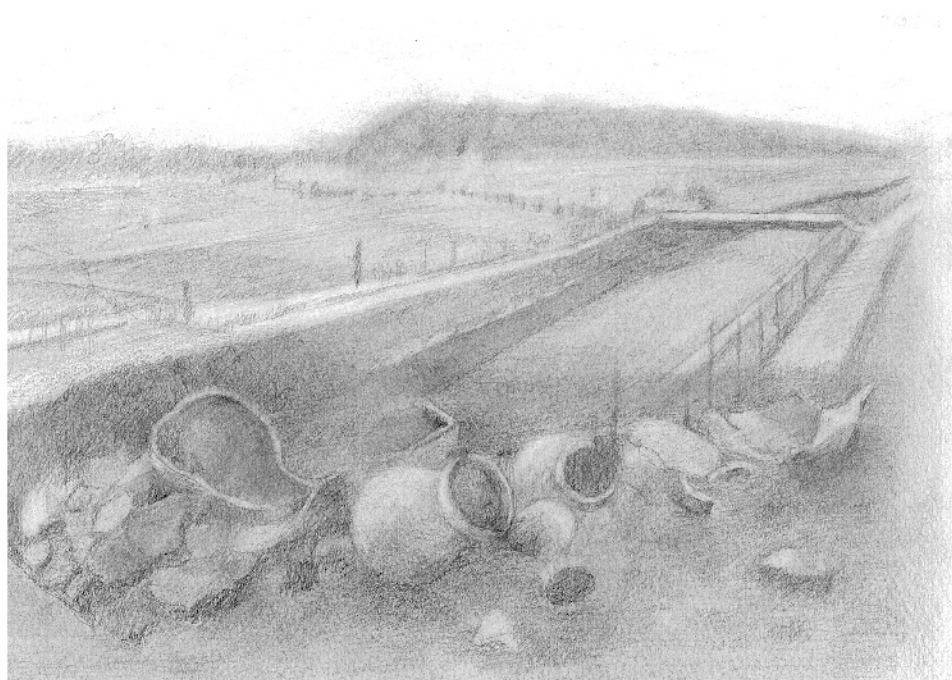


# 文芸ふじさわ

第56集



## 表紙のことば

長久保公園に近い自宅から、自転車で引地川沿いに北へ向かう。富士見橋、清水橋、上村橋、1号線の引地橋脇を通り過ぎ、柏山公園脇を通り過ぎると風景はガラッと変わって田園風景が広がる。右側は稲荷大地、左側は芙蓉カントリーのゴルフ場からライフタウン、正面に大庭城址公園の小高い山、田園風景の真ん中に引地川が流れている。

このあたりの広大な土地を「大庭御厨」というらしい、と最近知った。平安時代末期、鎌倉景正はこの地を伊勢神宮に寄進し、稲や産物を供祭物として差し出す代わりに、保護をうけて領土安全をはかり、荘園となった。何だかすごい場所なんだなあ、と感じる。

2018年市民ギャラリーで「大庭城と城山の歴史、遺跡調査速報展」が開催された。この周辺は大庭城が築かれる以前、原始、古代から集落があり、縄文、弥生、古墳、奈良、平安時代の各時代の遺物が散布しており大庭城が築かれる以前から人々の生活舞台になっていたらしい。

去年の秋、親水公園でナンキンハゼの紅葉を楽しんだが、大昔の人々も秋を楽しんでいたのかなあ…

絵と文 宮原青子

# 文芸ふじさわ

## 第56集



短歌	5
川柳	17
俳句	37
五行歌	67
現代詩	79
随筆	89
編集後記	144



## 「文芸ふじさわ第56集によせて」

藤沢市教育委員会 教育長 岩 本 将 宏

「文芸ふじさわ」第56集が発行されますことを心からお祝い申し上げます。「文芸ふじさわ」は、みなさまが日常生活の中で感じられたことを文字で表現された、「短歌」「川柳」「俳句」「五行歌」「現代詩」「随筆」の作品集です。文芸を愛好されるみなさまが、お互いの作品を発表しあうことで、切磋琢磨することのできる場となっています。応募は一人種目となりますが、それぞれの得意分野を選択できることで、毎年、素晴らしい作品が投稿されています。

新型コロナウイルス感染症が2020年1月に国内で初めて確認されてから、私たちは2年以上にわたり、ひたすら感染防止の対策に向き合ってきました。みなさまの活動もウィズコロナの中で、さまざまな工夫と対策を講じながら取り組んでこられ、たいへんご苦労があったことと思います。一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束して、安全・安心な日々が戻ることを心より願っております。

さて、みなさまが作品を投稿されるにあたっては、ご自身が書き溜めてきた作品の中から、「読み手」がどのように感じてくれるかを想像しながら作品を厳選されるではないでしょうか。他の人の作品を「読むこと」は、作者の想いを想像したり、さまざまな表現方法に触れたりすることで、ご自身が書くための知識が深まったり、表現の幅を広げたりすることにつながります。「書くこと」は、言葉を厳選し、言葉の流れを考えながら、自分の想いを表現することです。自分の想いを表現する方法には、「話すこと」もあります。が、「書くこと」が優れているのは、自身が書いた言葉を読んでも読み返すことで、自らが「読み手」にもなれるということではないでしょうか。つまり、文字を仲立ちとして、「書き手」と「読み手」の関係が自分の中で実現させることができるのです。おそらく、そうして試行錯誤した作品が今回も多数投稿され、他の人が読まれたときに、その想いの深さや表現の巧みに感動するのではないのでしょうか。

このように「文芸ふじさわ」が毎年発行を続けてこられたのは、文芸愛好者のみなさまが熱心に作品の投稿を続けてこられたこと、編集委員のみなさまのご努力によるものと思っております。文芸作品を通して広がるみなさまの輪が、さらに大きく広がり、ますます愛される「文芸ふじさわ」となることを心より願っております。